

大学生を対象としたNPOインターンシップの役割について ーNPOへの入口機能に着目して

山岡 義卓 高橋 利道 高城 芳之

アブストラクト

神奈川県横浜地域で実施されている、大学生を対象とし、NPO等を受け入れ機関としたインターンシップ・プログラムにおいて、参加学生に対して、事前および事後にアンケート調査を行い、本インターンシップへの参加によるNPOに対するイメージや関わり方の変化等を調査した。

その結果、主に次の3点が示された。①本インターンシップにはNPOに関する知識はあるものの、NPO等の活動に関わる機会がこれまでなかった学生が多く参加している。②本インターンシップ参加以前にNPO等の活動に関わったことのなかった学生は、本インターンシップに参加したことにより、今後、NPO等の活動に積極的に関わりたいと感じるようになった。③本インターンシップ以前からNPO等の活動に参加している学生も、引き続きNPO等の活動に積極的に関わっていきたいと感じている。

以上より、本インターンシップは、NPO等に関心はあるもののこれまで活動に参加したことがなかった学生に対しては、NPOへの入口の役割を果たしており、また、既にNPO等の活動に参加している学生に対してもその関係をさらに前向きな方向に促す役割を果たしていることが示された。

キーワード NPO、インターンシップ、ボランティア、大学生

1. はじめに

NPOをはじめとした民間非営利組織では、その活動の担い手として、ボランティアを多く受け入れている。大学生においてもNPO等でボランティアを行っている学生は多く、社団法人日本私立大学連盟の調査によれば、大学生の26.5%が何らかのボランティアに参加している(社団法人日本私立大学連盟2011)。学生がボランティアに参加する理由¹⁾は、「困っている人の手助けがしたいから」(45.1%)「新しい人と出会いたいから」(33.3%)「地域や社会をよ

りよくしたいから」(33.0%)などであり、自分自身の成長や学習のためよりもむしろ、誰かを助けたり地域をよくすることなど、周囲に対して何らかの働きかけをしたいという動機が多い(独立行政法人日本学生支援機構2006)。

一方、多くの大学では、キャリア形成科目のひとつとしてインターンシップを導入している。大学の授業科目として実施されているインターンシップは、夏休みなどの長期休暇中に10日間程度の職業体験を実施するスタイルが一般的である。実習先は民間企業、行政機関、NPO、公益法人などさまざまであるが、多くは民間企

業である。ちなみに2014年度の神奈川大学経営学部の授業科目（科目名：実社会体験研究）を通じてインターンシップに参加した50人の実習先の内訳は、民間企業35人、行政機関3人、その他（公益社団法人、共同組合、商工団体、NPO等）12人と7割が民間企業である。学生がインターンシップに参加する目的は、「仕事理解」（59.9%）「業種理解」（53.9%）「企業・職場の雰囲気を知る」（35.8%）等であり、就職活動を含めた自分自身のワークキャリアの形成を念頭に置いた活動となっている（リクルートキャリア 2014）。

ボランティアもインターンシップも、いずれも、賃労働以外の形で組織の一員として活動に参加するという点ではよく似ているが、参加する学生の目的意識は前述のようにそれぞれ異なる（表1）。目的が違えば、参加する学生層も異なると考えられる。

本稿にて取り上げる「NPOインターンシップ」（主催：特定非営利活動法人アクションポート横浜²⁾）（以下、「本インターンシップ」と言う。）は、大学生を対象とし、神奈川県横浜市内およびその近隣地域で活動しているNPOや市民活動団体、社会的企業を受入れ団体としたインターンシップ・プログラムである。

本プログラムは名称に「インターンシップ」という語が含まれることから、同じNPO等での活動であっても、ボランティアとして参加する学生とは異なる目的意識をもった学生が参加する可能性が考えられる。すなわち、これまでボランティアとしてNPO等の活動に参加したことのない、あるいは今後参加する意思のない学生もインターンシップには参加することが

考えられる。そうであれば、そのような学生が、本インターンシップに参加し、NPO等の活動を見聞し、その世界に関心を持つようになれば、本インターンシップは、ボランティアへの参加を通じてNPO等に関わる学生とは異なる層の学生に対して、NPOへの入口機能を有すると言える。

このような仮説に基づき、本研究では、本インターンシップに参加した学生へのアンケート調査により、本インターンシップに参加した学生のNPOに対するイメージや関わり方の変化を確認し、NPOへの入口機能について検証を行った。

2. 方法

（1）本インターンシップについて

① 本インターンシップの概要

本インターンシップの概要は表2のとおりである。NPOや地域課題に関心をもつ学生を発掘し、NPOの活動経験を通して、市民活動を支える人材を育成することを目的とし、2009年より毎年実施されている。プログラムの運営には、横浜市内および近隣地域にキャンパスを有する7つの大学（以下、「協力大学」と言う。）が協力している。各大学では、それぞれ授業科目やボランティアセンター等を通じて、本インターンシップを学生に案内し、参加を呼び掛けている。協力大学以外の学生も参加することは可能であり、事務局ではインターネットやチラシを用いて周知を行っている。プログラムは、実習期間により、短期（約2週間）と長期（約6か月）に分けられている。

表1 ボランティアとインターンシップに参加する学生の目的の違い

種別	参加する学生の主な目的
ボランティア	「困っている人の手助けがしたいから」「新しい人と出会いたいから」「地域や社会をよりよくしたいから」等 ・・・他者への働きかけ
インターンシップ	「仕事理解」「業種理解」「企業・職場の雰囲気を知る」等 ・・・自分自身のワークキャリアの形成

表2 本インターンシップの概要

目的	NPOや地域課題に関心をもつ学生を発掘し、NPOの活動経験を通して、市民活動を支える人材を育成すること。
実施主体	特定非営利活動法人アクションポート横浜
運営組織	アクションポート横浜が事務局を担い、横浜市内および近隣地域に所在する7大学（協力大学）が運営に協力。
対象	大学生（学年は問わない）
受入団体	横浜市内および近隣地域を活動拠点とするNPOや市民活動団体、社会的企業。事務所を有し、常勤職員が1人以上いることを条件とする。
実習期間	短期：10日間前後、長期：6か月程度

表3 実施スケジュール

年	月日	プログラム	内容
2014年	5月19日	お見合い会	参加を希望する学生と受け入れ団体のお見合い会。複数の受入団体と面談したうえで、学生は実習先の希望を出す。 希望が重複した場合は、事務局との相談により調整し、最終的な実習先を決定する。
	5月19日	事前研修会	活動にあたり必要なNPOやインターンシップに関する基礎知識を学ぶための研修会
	9月5日	中間報告会	実習中の学生たちが互いに情報交換を行う。
	10月4日	短期インターンシップ 成果報告会	短期インターンシップを実施した学生による成果報告
2015年	2月10日	長期インターンシップ 成果報告会	長期インターンシップを実施した学生による成果報告

2014年度は、表3のスケジュールで本インターンシップを実施した。

② 参加学生の背景

2014年度の参加学生は36人でその背景等は次のとおり。

a. 性別

男性7人、女性29人と女性の割合が高い。

b. 学年

学年は、1年：6人、2年：10人、3年：18人、4年：2人と、2、3年生が中心であった。

c. 所属大学

全員が協力大学の学生であった（表4）。

d. 所属学部

全員が文系で社会科学系の学部が多数を占めた（表5）。

③ 受け入れ団体の概要

受け入れ団体は18団体でその概要は次のとおり。

a. 法人格等

18団体中13団体が特定非営利活動法人（以下、「NPO法人」と言う。）であった。なお、NPO法人13団体のうち、1団体は認定NPO法人である。

b. 主な活動分野

図2のとおりであり、プレイパークの運営から国際協力まで幅広い分野の団体が参加している。

表4 参加学生の所属大学

大学	人数
A大学（国公立）	4人
B大学（国公立）	7人
C大学（私立）	2人
D大学（私立）	2人
E大学（私立）	8人
F大学（私立）	9人
G大学（私立）	4人

表5 参加学生の所属学部等

学部等	人数
リベラルアーツ学群	8人
国際経営科学部	7人
社会学部	4人
文学部	4人
国際交流学部	4人
教育人間科学部	3人
経営学部	3人
経済学部	2人
ビジネスマネジメント学群	1人

c. 所在地

18団体のうち17団体が横浜市に所在し、1団体は川崎市に所在する。

d. 実習期間

18団体とも短期インターンシップを受け入れており、うち、8団体は長期インターンシップの受け入れも実施している。

(2) 調査方法

本インターンシップに参加した学生に対して、事前および事後に自記式のアンケート調査を実施した。

事前調査はお見合い会の日、事後調査は短期

インターンシップ成果報告会の日に実施し、その場でアンケート用紙を配布し、回収した。なお、長期インターンシップを実施している学生においては、事後調査の時点は実習の途中であるが、同様のアンケートを実施した。お見合い会および成果報告会に欠席した学生には、後日事務局よりメールによりアンケートを配布し、回答を依頼した。

主な調査項目は次のとおり。

<事前調査>

- ・基本情報（大学、実習機関、性別、年齢、入学年度、居住地（市区町村））

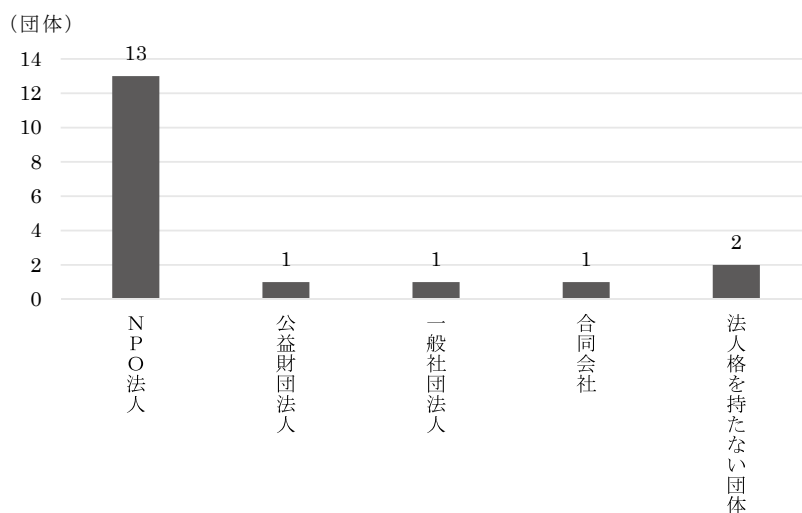


図1 受け入れ団体の法人格等

(団体)

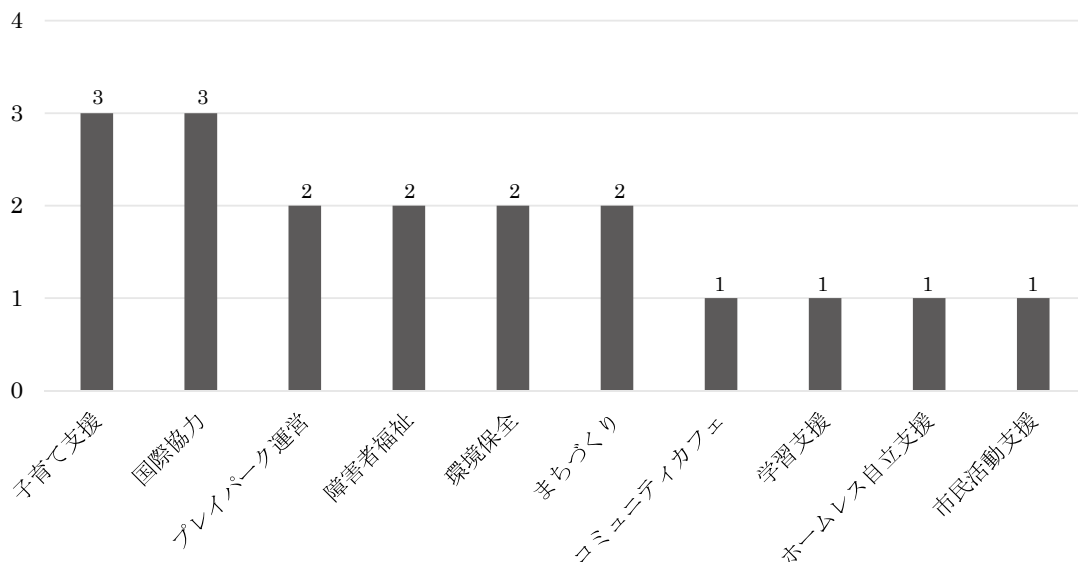


図2 参加団体の主な活動分野

- ・本インターンシップへの参加動機
- ・これまでのNPO等との関わり
- ・NPOに対する認識
- ・NPOに対するイメージ
- ・卒業後の進路
- ・本インターンシップへの期待

<事後調査>

- ・本インターンシップの満足度
- ・本インターンシップの運営について
- ・実施した感想
- ・今後のNPO等との関わりについて
- ・NPOに対するイメージの変化

3. 結果

(1) 回収数

参加学生36人に対し、アンケートの回収数は表6のとおりであった。事前調査の回収率は97.2%であったが、事後調査の回収率は70%に満たない。アンケートは当日出席した学生からは全員回収しており、事後調査の回収率が低いのは、成果報告会に欠席した学生が多かったことによる。欠席した学生には、後日メールでアンケートを依頼したが、回答は得られなかった。

表6 アンケート回収数と回収率

調査時期	回収数	回収率 (%)
事前	35	97.2
事後	25	69.4

(2) 事前調査

① 居住地

参加学生の居住地は、表7のとおりであり、51.4%が横浜市、71.4%が神奈川県であり、埼玉、千葉といった遠方から参加した学生が3人いたもののほとんどは横浜およびその近隣地域の学生であった。

表7 参加学生の居住地域 (n=35)

居住地域	人数	割合 (%)
横浜市内	18	51.4
神奈川県内 (横浜市以外)	7	20.0
東京都	6	17.1
埼玉県	3	8.6
千葉県	1	2.9

② 参加動機

本インターンシップに参加した動機は図3のとおりであり、「今までやったことのない経験

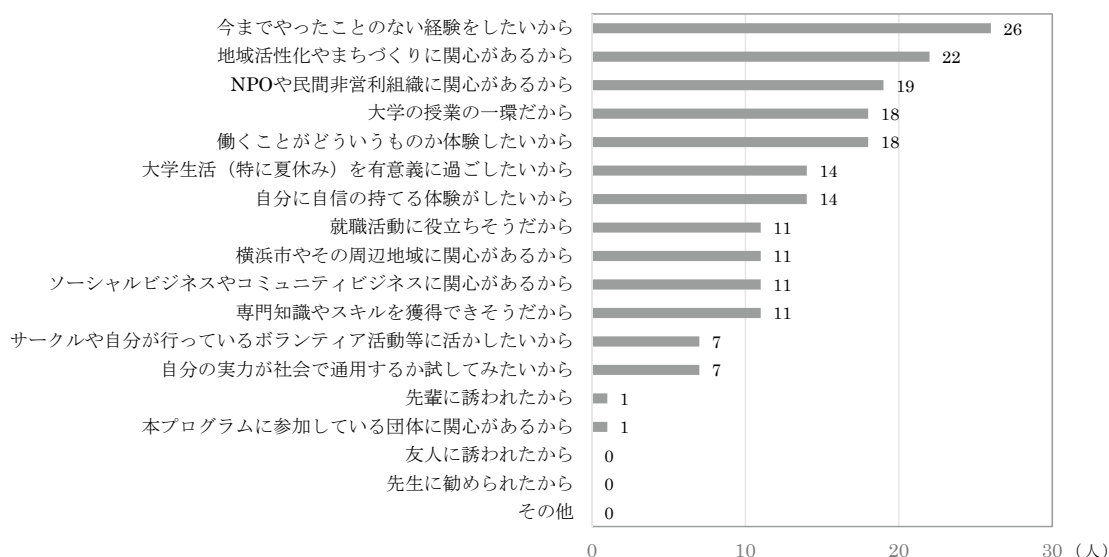


図3 本インターンシップへの参加動機（複数回答）

をしたいから」が26人ともっとも多く、「地域活性化やまちづくりに関心があるから」が22人とこれに続く。「NPOや民間非営利組織に関心があるから」も19人と3番目に多い。

③ 本インターンシップ参加以前のNPO等との関わり

本インターンシップ参加以前のNPO等との関わりは表8のとおりであり、半数以上の学生が、「これまでNPOや市民活動団体等の活動やイベントには参加したことがない」と回答して

おり、本インターンシップがNPO等との初めての関わりとなる。一方で、これまでに活動やイベントに参加したことがある学生は45.5%おり、現在も活動に参加している学生も3人いる。

④ NPOに対する認識

事前調査時点におけるNPOの認識は表9のとおりで、「よく知っていた」が54.3%、「存在や活動は見聞きしたことがある」が34.2%であり、合わせて9割近い学生がNPOについて認識しており、NPOという言葉を今回初めて知ったと

表8 本インターンシップ参加以前のNPO等との関わり（n=33）

NPO等との関わり	人数	割合 (%)
現在、NPOや市民活動団体の活動にボランティア等として参加している	3	9.1
これまで、NPOや市民活動団体の活動にボランティア等として参加したことがある	6	18.2
これまで、NPOや市民活動団体の主催するイベント等に参加したことがある	6	18.2
これまで、NPOや市民活動団体の活動やイベント等には参加したことがない	18	54.5

表9 本インターンシップ参加時点におけるNPOの認識（n=35）

NPOの認識	人数	割合 (%)
NPOの活動や事業内容については、本プログラム参加前からよく知っていた	19	54.3
NPOの存在や活動は見聞きしたことがあるが、詳しく知らなかった	12	34.2
NPOという言葉は知っていたが、存在や活動については知らなかった	4	11.4
NPOという言葉自体、本プログラムに参加して初めて知った	0	0.0

いう学生はいなかった。

(3) 事後調査

① 満足度

本インターンシップの満足度は高く、「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせると92.0%であり、ほとんどの学生が満足と感じていた（表10）。

表10 本インターンシップに対する満足度 (n=25)

満足度	人数	割合 (%)
満足	16	64.0
どちらかと言えば満足	7	28.0
どちらとも言えない	2	8.0
どちらかと言えば不満	0	0.0
不満	0	0.0

② 本インターンシップの運営について

a. 実習期間

事後調査実施時点において長期インターンシップの参加者はまだ実習の最中であり、実習期間についての適切な判断はできないと考えられたことから、短期インターンシップの参加者の結果のみを集計した。その結果、85.7%が「ちょうどよい」、14.3%が「少し長い」と感じていた。実習期間が短いと感じた学生はなかつ

た（表11）。

表11 実習期間 (n=21)

実施期間	人数	割合 (%)
長い	0	0.0
少し長い	3	14.3
ちょうどよい	18	85.7
少し短い	0	0.0
短い	0	0.0

※ 短期インターンシップ参加者のみ

b. 実習内容（難易度）

実習内容の難易度については、ほとんどの学生が「ちょうどよい」または「やや簡単」と回答しており、学生にとっては比較的容易な実習であった（表12）。

表12 難易度 (n=25)

難易度	人数	割合 (%)
難しい	0	0.0
やや難しい	1	4.0
ちょうどよい	21	84.0
やや簡単	3	12.0
簡単	0	0.0

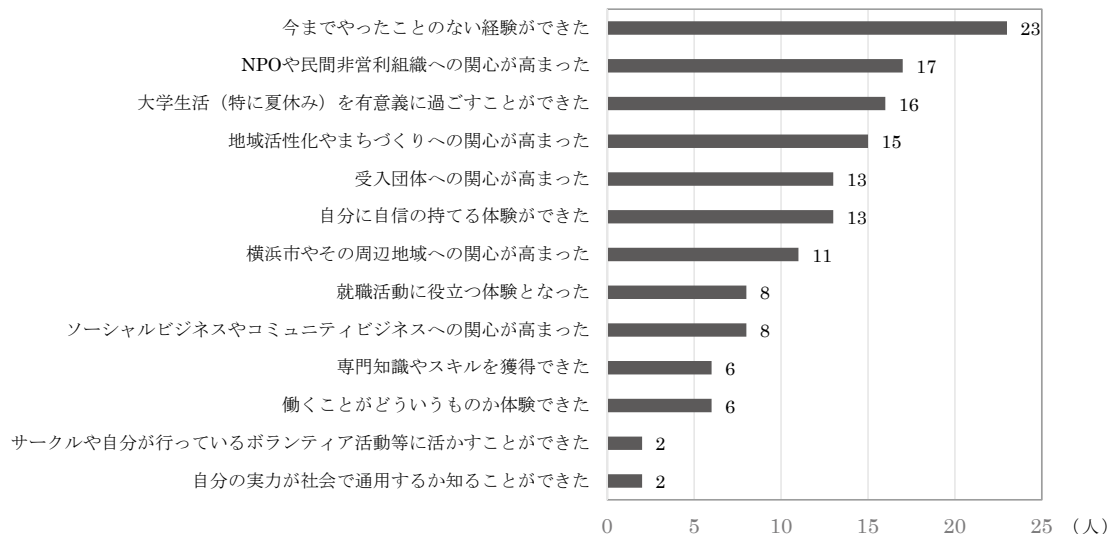


図4 本インターンシップに参加した感想（複数回答）

③ 実施後の感想

本インターンシップに参加した感想は図4のとおりであり、「今までやったことのない経験ができた」が23人と最も多く、「NPOや民間非営利組織への関心が高まった」が17人とこれに続く。

④ NPO等との今後の関わり

NPO等との今後の関わりについては、実習を実施した受け入れ団体と、受け入れ団体以外のNPO等との関わりに分けて調査した。

a. 受け入れ団体との関わり

受け入れ団体との今後の関わりについては、「今後もボランティア等として継続的に活動に参加したい」と「イベントのお手伝い等可能な範囲でボランティア等として活動に参加したい」を合わせると87.5%であり、ほとんどの学生が今後も継続的に受け入れ団体の活動にかかわっていきたいと考えている（表13）。

また、事前調査において「これまで、NPO

や市民活動団体の活動やイベント等には参加したことがない」と回答した学生、すなわち、本インターンシップへの参加がNPO等との初めての接点であった学生のみについて見ると、「今後もボランティア等として継続的に活動に参加したい」と「イベントのお手伝い等可能な範囲でボランティア等として活動に参加したい」を合わせて90%であり、同じように、ほとんどの学生が今後も受け入れ団体の活動にかかわっていきたいと考えている（表14）。

b. 受け入れ団体以外のNPO等との関わり

受け入れ団体以外のNPO等との今後の関わりについては、「興味や関心のもてるNPOや市民活動団体を探して活動に参加したい」と「NPOや市民活動団体の活動に注目し、興味や関心が向けば活動に参加したい」を合わせて64.0%、さらに、「NPOや市民活動団体の主催するイベント等に積極的に参加したい（参加者として）」も合わせると96.0%となり、ほとん

表13 受け入れ団体との今後の関わり (n=24)

今後の関わり	人数	割合 (%)
今後もボランティア等として継続的に活動に参加したい	7	29.2
イベントのお手伝い等可能な範囲でボランティア等として活動に参加したい	14	58.3
イベント等があれば積極的に参加したい（参加者として）	3	12.5
今後は特に関わりを持つ予定はない	0	0.0

表14 受け入れ団体との今後の関わり
(これまでNPO等の活動に参加したことのない層) (n=10)

今後の関わり	人数	割合 (%)
今後もボランティア等として継続的に活動に参加したい	3	30.0
イベントのお手伝い等可能な範囲でボランティア等として活動に参加したい	6	60.0
イベント等があれば積極的に参加したい（参加者として）	1	10.0
今後は特に関わりを持つ予定はない	0	0.0

表15 受け入れ団体以外のNPO等との今後の関わり (n=25)

今後の関わり	人数	割合 (%)
興味や関心のもてるNPOや市民活動団体を探して活動に参加したい	1	4.0
NPOや市民活動団体の活動に注目し、興味や関心が向けば活動に参加したい	15	60.0
NPOや市民活動団体の主催するイベント等に積極的に参加したい(参加者として)	8	32.0
今後はNPOや市民活動団体と積極的に関わりを持ちたいと思わない	1	4.0

表16 受け入れ団体以外のNPO等との今後の関わり
(これまでNPO等の活動に参加したことのない層) (n=11)

今後の関わり	人数	割合(%)
興味や関心もてるNPOや市民活動団体を探して活動に参加したい	1	9.1
NPOや市民活動団体の活動に注目し、興味や関心が向けば活動に参加したい	6	54.5
NPOや市民活動団体の主催するイベント等に積極的に参加したい(参加者として)	4	36.4
今後はNPOや市民活動団体と積極的に関わりを持ちたいと思わない	0	0.0

どの学生が受け入れ団体に限らず今後もNPO等の活動にかかわっていきたいと考えている(表15)。

また、事前調査において「これまで、NPOや市民活動団体の活動やイベント等には参加したことがない」と回答した学生、すなわち、本インターンシップへの参加がNPO等との初めての接点であった学生のみについて見ると、「興味や関心もてるNPOや市民活動団体を探して活動に参加したい」、「NPOや市民活動団体の活動に注目し、興味や関心が向けば活動に参加したい」、「NPOや市民活動団体の主催するイベント等に積極的に参加したい(参加者として)」を合わせて100%であり、同じように、ほとんどの学生が今後もNPO等の活動にかかわっていきたいと考えている(表16)。

⑤ NPOに対するイメージの変化

本インターンシップに参加したことでNPOに対するイメージに何らかの変化があったかを尋ねたところ、25人中15人が何らかの「変化があった」と回答している。具体的な変化の内容は次のとおりであり、「重要性を認識した」「活動に関わりたいと思うようになった」等、NPOの存在や活動を前向きに捉えるような変化が多く見られた。

NPOに対するイメージの変化(自由記述) ＜抜粋＞

「以前はどんな活動をしているのかあまりわからなかったが、インターンシップを通じてさまざまなNPOの活動があることがわかったし、より一層興味をもつことができた。また地域の方々との関わりや理解もすぐ大切なものなんだと思った。」

「地域の人たち企業の人たち高齢者の方や子供たちと関わる機会があったので、以前は関心がなかった人たちだったが、インターンシップ後は考えるようになり、関わりたいという意識をもつようになった。」

「NPO団体は国際協力などがメインで、日本の中にも、しかも地域別のコミュニティを広げる活動があると思わなかったが、そういう身近なローカルNPO、NGOの団体を多く知ることができた。年配のスタッフが多いイメージだったが、若者も多いことに気付いた。」

「以前はどんなことをするのだろうかとNPO法人の収入とかを知りたかった。インターンシップ後は、そういったことやNPO法人の他にも農業の方等、いろいろな人が関わっているということを知った。」

「私はNPOではなく合同会社にインターンシップをしましたが「ソーシャルビジネス」というものがどういうものなのか具体的なイメージがないまま参加しました。ボランティア団体的な側面が含まれているものなのかなと思っていましたが、実際はそうではなく真剣にビジネスがなされていました。ビジネスをしていくことによりそのまちの経済構造が変わっていくことでまちがよりよくなるということなのかなと今は思います。」

4. 考察

本プログラムに参加した学生のうち半数以上が、NPOについて「よく知っている」と回答しており、「存在や活動は見聞きしたことがある」を合わせると88.6%になり、NPOについての知識のある学生が多数を占めている。これは、参加した学生は全員協力大学の学生であり、協力大学においては、それぞれ授業等を通じて、何らかの形で学生に対して本インターンシップの案内や説明をしているため、高い値になったものと考えられる。加えて、協力大学のうちのいくつかでは、いわゆるインターンシップ科目ではなく、まちづくりやNPOをテーマにした授業の中で本インターンシップへの参加を促しており、こうしたことを反映しての結果と推測される。ただし、活動への参加となると、反対に半数以上の学生が、活動にもイベントにも参加したことがないと回答していることから、本インターンシップには、NPOに対する知識はあるものの、実際の活動に関わる機会がこれまでなかった学生が多く参加している。

参加動機については、「今までやったことのない経験をしたいから」という漠然とした動機が最多ではあるものの、「地域活性化やまちづくりに関心があるから」、「NPOや民間非営利組織に関心があるから」といった、民間企業でのインターンシップでは出てこないであろう、NPOならではの動機が上位を占めており、単にインターンシップに参加したいということではなく、NPOとの関わりを欲して参加している学生が多い。これも、参加した学生が、協力大学の学生であることを反映しての結果と推測される。

事後調査では、回答者全員が受け入れ団体と今後、何らかの関わりをもっていきたいと回答しており、さらに、受け入れ団体以外のNPO等との関わりについても、9割以上の学生が今後、積極的に関わっていきたいと回答している。事前調査において「これまでNPOや市民活動団体の活動やイベント等には参加したことがな

い」と回答した学生に限って集計した場合も、同じように、受け入れ団体についても、それ以外のNPO等についても、全員が今後、積極的に関わっていきたいと回答している。

これは、これまで、NPO等の活動に関わったことのなかった学生が、本インターンシップに参加したことにより、今後、積極的に関わっていきたいと感じるようになったということである。すなわち、これらの学生にとってNPOは、それまでは関わることのない縁遠い存在であったが、本インターンシップ後は、自から積極的に関わりたいと思えるような身近な存在になったということであり、本インターンシップがNPOへの入口機能を果たしたといえよう。

ただし、これらの学生が、本インターンシップに参加しなければNPOの世界への入口が閉ざされていたかどうかを推測することは難しい。むしろ、参加動機からは、NPOとの関わりを求めて来ている学生が多いことから、本プログラムに参加しなかったとしてもいずれ何らかの形でNPO等の活動に関わる機会はあると考えることが妥当であろう。すなわち、本調査結果のみからは、冒頭に記載したような仮説（本インターンシップは、ボランティアへの参加を通じてNPO等に関わる学生とは異なる層の学生に対して、NPOへの入口機能を提供する）を立証することは難しい。

また、本インターンシップ以前からNPO等の活動に参加している学生も、今後もNPO等の活動に積極的に関わっていきたいと答えており、本インターンシップがNPO等との関係性を前向きな方向に促す役割を果たしていることが窺える。

実施期間や実習内容の難易度については、いずれも「ちょうどよい」が多く、学生にとっては、負担の少ないプログラムであることが窺える。NPOの世界への入口としての機能を考えれば、ハードルを低くし、間口を広くし、より多くの学生を招き入れることが必要であり、学生が「ちょうどよい」という印象をもつことは望ましい結果と考えられる。ただし、教育プロ

グラムとしては、より高い学習効果を期待するためには、ある程度難易度の高い実習機会を提供することも必要であり、今後の運営やプログラム設計にあたっては、こうした観点からの検討も必要と考える。

以上より、本インターンシップは、NPO等の活動に関心があるものの、これまで活動に参加したことがない学生が多く参加しており、そうした学生においては、本インターンシップがNPOへの入口の役割を果たしていることが示された。また、既にNPO等の活動に参加している学生においてもその関係をさらに促す役割を果たしていることが示された。(図5)

NPO等の活動が盛んな横浜地域において、本インターンシップのようにボランティアとは異なる形でNPOへの入口機能を大学生に提供することは、NPO等の活動の裾野を広げるために意義のあることであり、今後も継続して実施していくことが望ましいと考える。

「NPOや地域課題に関心をもつ学生を発掘し、NPOの活動経験を通して、市民活動を支える人材を育成する」という本インターンシップの目的に照らし合わせれば、前半部分（NPOや地域課題に関心をもつ学生を発掘）の目的は、本結果により達せられていることが確認されたといえ、また、後半部分（市民活動を支える人材を育成する）の目的についても、今後、関わりを持っていきたいという学生が多くいることから、その手がかりは得られているといえよう。

ただし、人材育成は、長期的な視点での検証が必要であり、そのためには、参加した学生の長期的なフォローアップが必要となる。また、横浜地域以外においてもNPO等を受け入れ機関としたインターンシップは実施されている（秋葉2005）。今後、目的を達成するために、他の事例も参考にしつつ、また、長期的な視点からの検証も含め、横浜に相応しいプログラムを確立していくことが課題となろう。

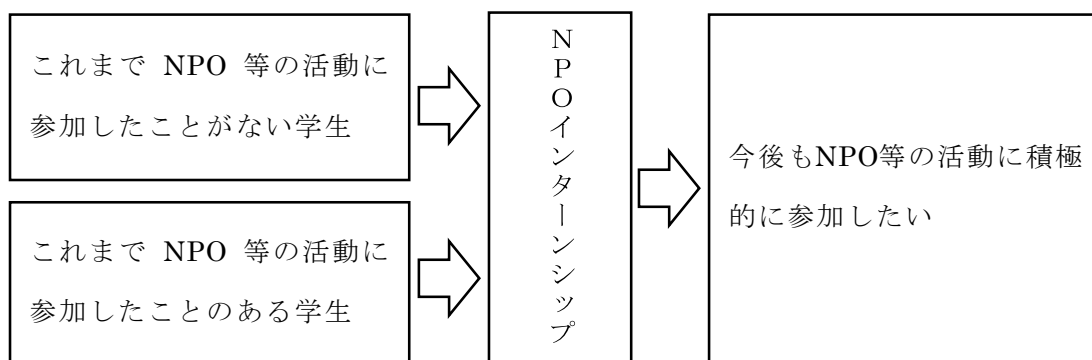


図5 本インターンシップの学生に及ぼす影響（概念図）

注釈

- 1) ボランティア経験のある大学生に「ボランティア活動をしたのはどのような気持ちからですか。」と質問をした際の回答。
- 2) 特定非営利活動法人アクションポート横浜
所在地：神奈川県横浜市、代表理事：昌子住江・斐安・岡部友彦、設立：平成20年9月、団体の目的：横浜に関わるNPO、企業、大学、行政等異なる性格の組織が対等に集い連携できる場を創ります。地域の様々な課題の解決を促し、市民が支える地域社会づくりの実現を応援します。多様な人材が育ち、地域参加の機会やきっかけを創ります。
(特定非営利活動法人アクションポート横浜ホームページ (<http://actionport-yokohama.org/> 2015年1月7日アクセス)より引用)

参考文献

- 秋葉武，公共組織(NPO・行政組織)におけるインターンシップ (I 論文・研究の部，インターンシップの新展開-光り輝く地域・企業と学校の創生を求めて-)，日本インターンシップ学会年報，(8)，1-7，2005年
- 社団法人日本私立大学連盟，「私立大学学生生活白書」，p.23，2011年
- 独立行政法人日本学生支援機構，「学生ボランティア活動に関する調査報告書」，p.66，2006年
- 株式会社リクルートキャリア，「就職白書2014」，p.7，2014年